

第31回日本医学会総会

ビッグデータが拓く未来の医学と医療
～豊かな人生 100 年時代を求めて～



第31回
日本医学会総会
2023 東京

ランチョンセミナー 11

抗がん剤による皮膚毛包周囲環境の 変化に基づく脱毛治療戦略

開催日時 2023年4月22日(土) 12:10~13:00

会場 東京国際フォーラム G502
第12会場

座長

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史 先生

演者

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス]
准教授

河野 洋平 先生

—参加方法—

総会 HP (<https://isoukai2023.jp/registration/index.html>) より事前参加登録をお願いいたします。

—整理券の事前予約を受け付けます—

■事前予約方法

事前予約を希望する方は参加登録サイトからご予約ください。

予約期間：2023年3月1日(水)～3月31日(金)

※総会当日、参加登録エリア(東京国際フォーラム B1F ロビーギャラリー)にて、参加証と一緒にご予約済みの
セミナー整理券を発券いたします。

■当日参加方法

※事前予約を行わない場合、直接セミナー会場にお越しいただき、先着順での入場となります。

※整理券がなくても聴講いただけます。※お弁当配布は数に限りがございます。

※講演会場には整理券をお持ちの方から優先的に入場いただけます。

セミナー開始後、整理券は無効となりますので、ご注意ください。



演者

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス]
准教授

河野 洋平 先生

抗がん剤による皮膚毛包周囲環境の 変化に基づく脱毛治療戦略

がん治療の進歩により生存期間が延長し、働きながら外来治療を続ける患者が増えた現代では、抗がん剤誘発脱毛をはじめとする外見症状のケアは、その研究の意義が大きい。これまで我々は抗がん剤脱毛における皮膚の病態や、抗酸化物質 α リポ酸誘導体の有用性を報告してきた。抗がん剤脱毛に対する、これまでの取り組みとともに研究結果に基づく治療戦略を紹介する。

我々は抗がん剤脱毛動物モデルの毛包周囲環境を観察し、血管透過性の亢進による抗がん剤の毛包周囲への漏出と、続発する皮膚ダメージの病態を示した。この病態に対し α リポ酸誘導体は毛包周囲の血管内皮細胞アポトーシスを抑制し、抗がん剤による血管透過性亢進を軽減する。さらに毛包周囲の酸化ストレスを軽減し、脱毛回復を促す可能性を示した。一方、現在最も臨床応用されている皮膚冷却法について、抗がん剤投与時の冷却は血管を収縮し血管透過性亢進を軽減することで同様に脱毛回復を促すと考えられた。今回、皮膚血管透過性の制御が抗がん剤脱毛治療の一要素である可能性を報告する。今後はこれらの治療を組み合わせることで、より効果的な抗がん剤脱毛治療が開発されることを期待している。

略歴等

【略歴】

2001年 大分医科大学医学部卒業	2017年 大分大学医学部 消化器・小児外科、高度救命救急センター 助教
2001年 大分医科大学外科第一 研修医	2018年 米国Weill Cornell Medicine Visiting Fellow
2007年 大分大学医学部 消化器・小児外科 医員	2022年 大分大学医学部 先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス] 准教授
2012年 大分大学医学部 博士課程 修了	

MEMO

Aderans

